



第42回例会(5月22日)  
平成27年5月29日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市築園1丁目10  
川徳デパート内  
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)  
例 会 日 毎週金曜日12時30分～

会 長 長澤 茂  
幹 事 嵯山 桂  
会 報 古山 明廣  
クラブ事務局 TEL(653)5682  
FAX(653)5622

Light Up Rotary. "ロータリーに輝きを" ゲイリー C. K. ホアン



ゲスト卓話

## 「県内経済 今年のお話あれこれ」

一般財団法人 岩手経済研究所 理事事務局長

菊池 信弥 様

### スピーカー紹介

一般財団法人 岩手経済研究所 理事事務局長  
昭和32年生まれ。北上市出身。  
昭和55年3月 明治大学法学部卒業  
昭和55年4月 岩手銀行入行  
平成19年4月 法人営業部長  
平成20年4月 中ノ橋支店長  
平成22年4月 リスク管理部長  
平成24年4月 営業統括部長  
平成25年4月 理事営業統括部長  
平成26年4月 岩手経済研究所事務局長兼総務部長  
平成27年4月 理事事務局長に就任、現在に至る。  
(荒道泰之会員)

### 1. 地方版総合戦略

人口減少と地域経済の縮小が進展している。地方が弱体化すれば、地方からの人材流入が続いてきた大都市もいずれ衰退するという危機感を背景に、国は「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定し、2060年に一億人程度の人口を確保するとの長期ビジョンと5カ年の基本目標を掲げ、地方再生への取り組みを開始した。

国の戦略を受け、地方公共団体は「地方版総合戦略」を2015年度中に策定する。地域の産官学金労言などからの意見を幅広く反映させ、地方創生に向け、地方自らが考え責任をもって戦略を推進することになる。

### 2. 地域経済循環（地方創生のカギ）

㈱価値総合研究所によれば、地域経済循環とは、地域が個性や強みを生かして生産を行い、地域外からの資金を獲得し、その資金を地域内で循環させることである。そのためには、産地の技術や農林水産品、観光資源などの地域資源の活用が重要になる。

キーポイントとして、競争力のある産業があるか（育てられるか）、所得の再配分が行われるか（行われているか）、資金の流出を防止できるか（例えば再生エネルギーの導入など）、地域金融が機能しているか（地域内への投資）、などの点が挙げられる。

地域経済循環は以前から議論されてきているが、本格的な取り組みには至っていない。地方創生が待ったなしの状況となった今、競争力のある産業を育て雇用を拡大する、また、地域内消費・調達により資金流出を防ぐ、等に本気で

取り組まなければならない。

### 3. 人手不足

県内の有効求人倍率は、震災以降概ね右肩上がりで上昇し、平成27年3月現在23カ月連続で1倍台となっている。特に被災地や県南地区で人手不足が深刻だが、県北地区は0.8倍程度と地域差がある。また、業種では食料品製造業、建設業、運輸業などで不足しており、食料品製造業の水産加工業などからは「人手が集まれば業績をもっと伸ばせる」という声も聞かれる。逆に事務系の職種は求職者は多いが求人が少ないなど、全体の雇用情勢としてはいわゆる「雇用のミスマッチ」が生じている。東京オリンピックに向けて再開発が盛んな首都圏等への労働力流出も懸念材料である。

このように、県内全体の有効求人倍率は高水準にあるが、業種や勤務地、労働条件などのミスマッチの解消や地元就職率の向上などが大きな課題となっている。

### 4. インフラマネジメント

国土交通省によれば、国内の公共社会資本は今後20年間で急速に老朽化する。高度成長期に全国で建設ラッシュがあり、それが今一斉に老朽化の時期を迎えていることが要因である。

老朽化が進行するなかで、災害への備えや公共福祉の向上といった本来的な使命はもとより、崩壊リスク、人口減少への対応あるいは行政職員の減少による維持・管理面の質低下、財政難など、課題が山積している。

こうした課題に対し、国ではインフラ長寿命化基本計画を策定する一方、地方にも公共施設等総合管理計画の策定を求め対策を講じること

としている。また、PPP/PFIによる民間ノウハウの活用や、地方創生への取り組みなど、多方面からの対策が必要である。

5. 空き家問題

総務省の平成25年住宅・土地統計調査によると、国内、県内、盛岡市の空き家はそれぞれ8,195千戸（空き家率13.5%）、76,300戸（同13.8%）、20,900戸（同14.4%）であり、いずれも10年前より25%程度増加している。県内、盛岡市の空き家率は全国を上回る。

空き家が増加する背景には、人口減少（流出）、高齢化、核家族化、固定資産税の優遇、新築住宅偏重などがあるが、空き家の放置により、老朽化による倒壊リスク、放火、ゴミの不法投棄、景観の悪化など多くの問題が生じる。

こうした問題に対し、国の「空き家対策特別措置法」や自治体の条例などで「特定空家等に対する措置」が講じられているほか、中古住宅市場の活性化や空き家バンクの設置などの取り組みが進められている。空き家の適切な管理、処分、活用が求められる。

6. 希望郷いわて国体（第71回国民体育大会）

希望郷いわて国体は、昭和45年以来46年ぶりの本県開催で、初めての完全国体となる（本大会と冬季大会が開催される）。また、東日本大震災の被災県が初めて開催する大会であり、

復興のシンボルとなる大会として位置づけられている。本大会の後には希望郷いわて大会（第16回全国障害者スポーツ大会）も開催される。当研究所の試算によると、3大会合計の推計来場者数は延べ100万6千人で約452億円の経済波及効果が見込まれる。大会が成功裏に終了するとともに、様々な波及効果によって地域振興が図られることを期待したい。

7. 震災から4年経過（来年3月で5年）

足元の復興状況を岩手県復興局の3つの調査（いわて復興インデックス、被災事業所復興状況調査、いわて復興ウォッチャー調査）から見ると、進捗に濃淡があるものの、全体として復興が順調に進んでいるとは、必ずしも言い難い状況である。

来年度から5年間の復興費は、県によると2兆1,823億円と試算されている。復興費用は今年度まで集中復興期間としてほぼ全額を国が負担してきたが、来年度からは地元負担を求める方針である。地元負担は1~3%程度としているが、5年間では数百億円になる可能性もある。

地方財政は厳しく、地元負担の影響は小さくない。復興はまだまだこれからという部分も多く、今後の復興の歩みに支障が生じないように対応を希望したい。

例会報告

第42回例会  
平成27年5月22日(金)

於 川徳 12時30分 開会点鐘

- ・司会 長澤 茂会長
- ・ソング 手に手つないで
- ・ビジター 山口淑子様 (RI2520 ガバナー (盛岡滝ノ沢R.C.))・平野 隆様 (地区大会実行委員長 (盛岡滝ノ沢 R.C.))
- ・ゲスト 菊池信弥様 (一般財団法人 岩手経済研究所 理事事務局長)
- ・会長報告 長澤 茂会長

- ・皆出席バッチ 菊池 尚君 (4年)・千葉隆史君 (5年)
- ・誕生祝 西島光茂君。
- ・幹事報告 飯塚肇副幹事

【ニコニコBOX】

◆長澤 茂君…2週間ほど前から裏の山の木をつつく音が聞こえてきました。以前に庭にコゲラが来たことがあるので気をつけて見ていたのですが、なんと姿を現したのはアカゲラでした。3年ほど前に保育園の栗の木に巣を作っていて岩手日報社で取材に来たので間違いないと思います。自然の豊かさに驚いてニコニコしたいと思います。

- ◆西島光茂君…久々に出席できました。そして友人に会い、話をした事に感謝してニコニコします。
- ◆菊池 尚君…本日皆出席バッチをもらいましたが、カワトクに来ること自体は2ヶ月ぶりです。来週、再来週はタンザニアとルワンダに行くためまた通常例会は欠席しますが、委員会出席で皆出席が続くのでニコニコします。

●メークアップ  
地区=古山・高田君。盛岡西R.C.=中山君。盛岡南R.C.=藤村(文)・金子・菊池・吉原君。盛岡中央R.C.=勝君。クラブ委員会=千葉・米内君。

出席報告 会員数 /71名 出席数 /41名 出席率 /60.29% 前々回 /80.88%

プログラムの  
お知らせ

・5月29日(金) ゲスト卓話 吉川博史様 (ジェット口盛岡 所長)  
「農林水産物・食品の輸出について」

- 本号編集担当 / 古山 明廣
- 次号編集担当 / 熊谷 祐三